



Newsletter

No. 61

2015年2月5日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

## いま声を上げるとき アベの「地獄への道」はごめんだ!

なにか一気に来た感じ。去年からことしにかけて、時代が悪いほうに加速している。昨年7月の集団的自衛権閣議決定、8月の「朝日バッシング」による言論規制につづき、安倍政権は12月総選挙の自公300議席をバックに、いよいよ本性をむき出しにしてきた。アベノミクスは破綻し、安倍政権のいいところはひとつもなくなったが、国民はあきらめムードで「地獄への道」に身を委ねているように見える。

でもこれに抗する人びとの輪も広がっている。1.17「女の平和」は「赤」で、1.25「辺野古基地反対」では「青」で、それぞれ7000人の人びとが国会を包囲した。通常国会では、労働法制緩和の「残業代ゼロ法」「派遣法改悪」がまた出てくる。「戦争する国」「もの言えぬ社会」「超格差社会」に突き進む安倍政権に、いま待ったをかけるときである。来日中のピケティ氏は、日本の若者にこうメッセージを寄せた。「闘ってください。民主主義というのは闘いです。若者にとっては、公平、待遇改善を求める闘争です。民主主義はもっと強化できる。誰もが関わらなければなりません」。はたらくもの情報ネットワーク「レイバーネット」も、これまでになく緊張感をもって声を上げ、時代に関わってきたい。

1月7日のレイバーネットTVプロジェクト会議では、番組企画について突っ込んだ議論が行われた。安倍政権がすすめている「歴史修正主義」「表現の自由の規制」「貧困・非正規問題」などは、継続したテーマとして取り上げていくことになった。(M)

### <レイバーネットTV 2015 年前期放送案内>

テレビに出られない芸人・松元ヒロさん出演決定!

#### ●第80号 2月11日(水)

「盗聴拡大・密告司法はゴメンだ! ~取調べ可視化の影で」

ゲスト=足立昌勝さん・米倉洋子さん

今通常国会で画策されている盗聴法大改悪で、警察は捜査機関(警察、検察)の施設における大規



模盗聴を実現しようとしている。国民一人ひとりの隅から隅まで監視・管理しようというのだ。これは危ない。盗聴法問題の第一人者である足立昌勝さんらをゲストに緊急に企画した。コーディネーターは山口正紀さん。

#### ●第81号 2月25日(水)

「ピケティ入門~なぜ格差は広がるのか」ゲスト=竹信三恵子さん

1%と99%がなぜ生まれたか。資本主義のもたらす格差をデータに基づいて証明したピケティ。竹信さんはいち早く「ピケティ入門」(週刊金曜日)を発刊し、日本に紹介した人。「ピケティ現象」に迫りながら、超格差社会とどう対抗していくのか、一緒に考えたい。

<2ページ下段に続く>

### <レイバーネット 2015 総会>

3月7日(土) 14時~17時(開場 13時半)

場所=スペースたんぽぽ

(東京・水道橋7分 TEL03-3238-9035)

第一部 総会 14時~15時

活動報告・財政報告・討論など

第二部 特別イベント 15時15分~17時

いまフランスで何が起きているのか?

●映画『スカーフ論争』上映+お話(菊池恵介・予定)  
パリで1月に起きた諷刺週刊紙「シャルリー・エブド」襲撃事件は衝撃的だった。その背景にはイスラム移民問題がある。「戦争・テロ・排外主義」は日本にもつながる問題。フランス移民問題に迫ったドキュメンタリー映画『スカーフ論争』を観て、一緒に考えてみたい。

参加費 会員無料(一般500円)

問合せ レイバーネット事務局 TEL03-3530-8588

## レイバーフェスタ 2014 報告

# 「ブラックバイト」「雨傘運動」などホットなテーマで

岩本太郎

年末恒例「レイバーフェスタ」が12月20日に東京・田町で開催された。労働問題を軸に平和・人権など多種多様なテーマを、映像（誰でも投稿できる「3分ビデオ」）や名物の川柳などを持ち寄り、トークも通じて一般市民の立場から毎年ごとに振り返るこのイベントも今年で13回目。その今回は、労働者の中でもとりわけ若く未来を担う存在である学生たちが目下直面している「ブラックバイト」の問題、そして昨年「雨傘運動」などと呼ばれて世界的にも大きな反響を呼んだ香港オキュパイ運動の参加者2人を招いた報告と質疑応答が直近のテーマ企画として盛り込まれた。



まず前者では、映画監督の土屋トカチさん（レイバーネット日本事務局長）によるドキュメンタリー『ブラックバイトに負けない！』の上映

を通じ、労基法も憲法が保障する基本的人権もヘタクレもなく学生をボロ雑巾的な労働力として酷使する企業側の実態と、それに対する法的対抗策などを紹介。ただしその後のトークで実際にブラックバイトの被害に遭った女子学生・Nさんの「法律を下にバイト先に苦情を言ったら『法律なんか守っていたら店が潰れるし、そんなものを振りかざすのは人間的ではない。君は若いから法律以外のことを学ぶべきだ』と言われました」との、まさにブラックジョーク的証言に場内は爆笑かつ慄然。また、本来は将来の社会を担う若者たちを応援するはずの奨学金制度が今や悪質な学生ローン化した実態も論じられた。

後者では、香港で労働者団体メンバーとして運動に参加したタム・インリョンさん（51歳）と、既存のテレビや新聞が報じない情報をSNS等で伝



える「香港独立媒体」のマルコさん（25歳）が登壇。タムさんは従来の香港の民

主化運動団体が越えられなかった壁を、若者ら中心に一般市民からの自発的参加を呼び込む形で約80日間に及ぶ大規模な市民運動まで拡大させた現実を、労働団体側としての反省を込めつつ強調。ちなみに雨傘運動の名称は警察が催涙弾や唐辛子スプレーで弾圧にかかったのに抵抗した市民らが用いた雨傘が由来だが、運動が収束した後、香港の隣りのマカオを訪れた中国・習近平主席が出席の式典で、雨が降っていたのに雨傘使用が禁じられたとの笑話も披露していた。

香港でのオキュパイ運動は終結したが、SNSなどのネットメディアで連日運動の様態を報じ続けた若いマルコさんは、「これは始まりと感じている」という。香港では問題の17年行政長官選挙の前に区議会選挙、特別行政区立法会選挙もある。これを報じる独立系メディア（「香港の若者は既存の新聞なんか読みません」とマルコさん）や、それを背景に二つの選挙で示された民意が今後の香港をどんなふうに変えていくのか、大いに楽しみなところだ。（「週刊金曜日」から転載。加筆版）



<1ページから続き>

●第82号 3月11日（水）

「トモダチ作戦：深刻な米兵の放射能被害」

ゲスト＝呉東正彦さん

福島第一原発事故から4年経ち、さまざまなことがより明らかになっている。原発労働者問題、米軍トモダチ作戦の被曝問題などを取り上げる予定。

●第83号 3月25日（水）

「冗談じゃない！若者貧困社会～どうする学生借金漬け」

ゲスト＝大内裕和さん・当事者の学生・白石孝さん

サラ金なみの「奨学金」やブラックバイトで苦しむ学生が急増している。背景には学費の大幅アップと親の年収の低下がある。超格差社会日本の矛盾の焦点に迫り、新たな社会運動の展望を探る。

●第84号 4月8日（水）未定

●第85号 4月22日（水）

「安倍政権を笑い飛ばす」ゲスト＝松元ヒロ

テレビに出られない芸人・松元ヒロさんが、レイバーネットTVに登場する。「ジョニーと乱のほっとスポット」の拡大企画。はたして何が出てくるか。スタジオ観覧歓迎。

\*その他「朝日バッシング」への反撃に立ち上がった元朝日記者・植村隆さんの出演も決まっています。番組予告内容は変わることがありますので、ウェブサイトでご確認ください。

\*前期は、2月～6月 第2第4水曜日 午後8時～9時30分放送。http://www.labornet.jp/org/tv。配信は「竹林閣」バンブースタジオです。観覧大歓迎です。

## レイバーネット国際部・香港の SACOM をサポート 中国ユニクロ「残酷」工場の実態を世界に伝える



これまで「ブラック企業」のレッテルを嫌い、社内の労働問題を報道した出版社などを次々 SLAPP 訴訟で訴えてきたユニクロ。そのユニクロに対して、ついに香港の SACOM（多国籍企業の不正・不当行為を監視する学者と学生の会）が証拠をもって問題を突きつけた。ユニクロの服を生産する中国の工場で、長時間労働や低賃金、職場の健康や安全が守られていないなどの問題が指摘されたのだ。

ファーストリテイリング社の柳井正氏に訴えられないように、慎重に慎重を重ねて SACOM のアレックス・チャンさんと行動計画を立てた。来日直後の記者会見（1/15）では、報道関係者 50 名近くが厚労省の記者クラブを埋めた。いつもならユニクロが関与する問題を報道することには躊躇する大手メディアが、テレビ局もふくめ次の日に一斉報道したのを見て、チャンさんはその効果に驚いていた。ユニクロが関わる労働問題について報道が解禁されたのは、SACOM の報告書発表直後に、会社が声明をもってほぼ主張を認め、SACOM との話し合いを求めてきたからだった。

り緊張していた。しかし私たちの心配とは裏腹に、反応は好意的だった。

都内各所での記者会見や集会では、「なぜユニクロだけを血祭りに上げるのか」「ほかの工場でも労働問題があるのでは」「ユニクロから金がほしいだけだろ」などの意見も聞いた。しかし、チャンさんはそのつど、ユニクロがファストファッションのリーディングカンパニーであること、労働環境や条件を率先して改善することで業界の模範になってほしいと願っていることなどを伝えていた。ファストファッションとは、デザインから商品化までの期間を最短で終え、毎週のように編み出す新商品を安価で消費者に届ける業態をいう。

チャンさんは、ファストファッションブランドを生産・販売する企業に対して改善を求めると同時に、それを求める消費者にも自分の消費動向を見直すように促した。「私たちは本当に新しい品物を、これだけの量、これだけ頻繁に必要としているのでしょうか」……23歳の活動家は、労働問題だけでなく、消費者側の欲求や需要について海を超えて一緒に考えていく機会はとても重要だと話していた。

一連の行動については、レイバーネット国際部の協力と貢献が非常に大きかった。この場を借りてみなさんに感謝したい。いつもは地道な活動に埋もれがちだが、今後も海外の労働運動に敏感に反応していければと思う。（松元ちえ）



18日の日曜日には銀座のユニクロ店舗前で、商品をつくる労働者が搾取されていることを買い物客にも訴えた。香港では、労働問題を告発するときには記者会見でなく店舗前行動で情宣するというチャンさんは、ショッピングモール内でなく、大型路面店前での情宣ははじめてだとして、かな



## 新会員紹介

### ●「ハローワーク立川雇い止め」とたたかう 行光誠治

「ハローワーク立川雇い止め裁判」原告の「ゆきみつ」です。現在、ハローワーク職員のうち、約7割が非正規の非常勤職員です。公共職業安定組織は非正規の相談員によって担われています。ところが、その非常勤職員の身分は「国家公務員法」には定めがなく、しかも「労働法規」は適用除外となっており、法の狭間にあつて、全くの無権利状態にあります。

わたしは6年間、非常勤の相談員として求職者の相談業務に従事してきましたが、昨年3月「任用」を拒否されました。理由を尋ねたところ、「ほかにもいい人がいた」、返ってきたのはその一言でした。納得がいかないの、「異議を申し立てたい」というと「そんなところは無い」。「では、文書にしてください」、やはり「できない」としか返って来ません。わたしはこのような「違憲状態」の是正と「復職」を求めて、昨年7月3日に国と東京労働局を東京地裁に提訴しました。よろしくご指導とご支援をお願い致します。

### ●観てほしい映画『三里塚に生きる』

山下一夫



新会員になりました山下一夫（アジア連帯講座）と申します。「レイバーフェスタ2014」では2・22「三里塚に生きる」自主上映会のチラシを同封させていただきました。ありがとうございます。すみませんが、この欄をお借りして、再度宣伝させていただきます。

映画は、三ノ宮文男さんの自死と柳川さんの三里塚に生きる＝「闘う根拠」、大木よねさんと小泉英政さんの三里塚に生きる「闘う根拠」、そして山崎宏さんの「闘う根拠」を観る側に迫ることに成功しています。

印象的だったのは代島監督が柳川さんに対して、「なぜ闘いをやめないで闘い続けるのか」という問いに対して、「三ノ宮が死んでるのが一番でけえけど」、（三ノ宮遺書が）『「ここでずっと生き続けろ』』という風に言っているからな、「生きられる環境を（作れ）ってことだんべからなあ、三ノ宮が言っていることはよ。そういうことをちゃんとやれっ

ていうことだ」と語るシーンはズッシリと迫ってくる場面です。

ラストシーンで小泉さんも「普通のおばあちゃんが最後まで国に抵抗するという、そういう気持ちに惚れた訳で。引き継ごうと思うのは、そういう気持ちですよ」と語ります。あらためて「生きる」とは何かを問いかける映画です。四回も観た仲間もいるほどです。すでに観た方も、再度観て交流を深めていきましょう。当日は、代島監督の講演もあります。

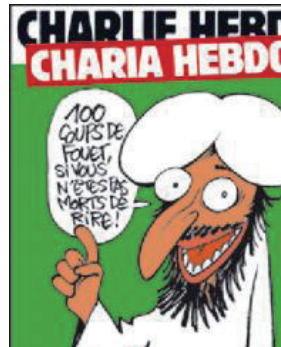
●2月22日（日）／午後1時30分～／午後4時～代島治彦監督講演／

●場所／早稲田奉仕園内／日本キリスト教会館6F／6ABC号室

## go go レイバーネット

### 『風刺の精神』とは何か～パリ銃撃事件を考える』記事に大きな反響！

レイバーネットウェブサイトの配信記事が拡がっている。各記事には、フェイスブックの「いいね」、ツイッターの転送数などが表示されるようになったので、反応の状況がわかるようになった。ツイッターには感想なども書かれている。最近で一番「いいね」が多かったのは、『風刺の精神』とは何か？～パリ銃撃事件を考える』（菊池恵介）で、それぞれ1000以上の転送数だった。「参考になる記事」「秀逸な記事！必読！」などもコメントもあった。飛幡祐規さんの「パリの窓から」も詳しい分析がされていて注目を浴びた。フランス問題に詳しい会員のちからで、レイバーネットが今回の事件について、重要な提起をすることができた。



ほかに転送数が500以上あった記事は、以下のとおり。「ユニクロの中国縫製工場ですトライキ～はたらくものの権利守れ！」「福島菊次郎 93歳のラストメッセージ～権力に刃向かい続けた写真家」「植村隆さん提訴・私は捏造記者ではない～歴史修正主義者への反撃はじまる」「北海道の小学生もやってきた～1.14 辺野古現地レポート」「7000枚のレッドカードが国会を縛り上げた～女の平和・ヒューマンチェーン」など。

レイバーネットの書き手は拡がってきているが、まだまだ少ないし限られている。いま、商業メディアでない、運動側・現場側からの視点をもった「民衆メディア」が求められている。ぜひ会員一人ひとりが「記者」となって、このメディアを育ててほしい。

## レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円  
(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

現会員数 572名  
ウェブアクセス 1日 5000

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本  
銀行口座 東京都民銀行 小竹向原出張所  
普通 55002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org  
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578